

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200841		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム有東坂 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県静岡市清水区有東坂一丁目224-45		
自己評価作成日	平成27年12月30日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivgvoCd=2294200841-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は1階が小規模多機能型居宅介護、2階がグループホーム1ユニットの併設施設となっております。近くに公園もある為、お客様と職員で散歩に行くことができ、機能訓練を図りながら気分転換にも繋げる事が出来ます。2階のグループホームでは自宅に住んでいた時のような温かい雰囲気の中でお客様に過ごして頂けるよう努めております。一緒に居室・フロアの掃除や洗濯物干し等を行っており、それぞれのお客様が事業所内で役割を持つ事で、ご自身の存在感を実感して頂いております。また、事業所内だけでなく、外食・外出の機会を設ける事で頂くことで、閉塞感の打破を目指しております。地域の催し物にも参加し社会との関わりも大切にしながら地域密着型を目指し取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26度の外部評価で「期待したい、とされた「散歩ができない日の外気浴や運動についてあらためて話し合うこと」は、昨年10月から着任の新管理者の音頭取りで体操が位置付けられ、利用者の1日の流れにリズムがつくとともに現在も職員全員がインストラクションできるようになっています。また「戸外でリフレッシュ～」との想いから「月に1回以上は～」と外出企画が増え、恒例の莓狩りのほか県庁の展望台探訪などへ出掛けています。職員の8割が男性となり、清掃状況やレクリエーションの取組みには課題が残るものの、ゆったりリズムの「待つ、ケアが在ることを視認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	チーム会議にて職員で理念を唱和することで職員への浸透を図り、会議時にチーム間で確認を行っています。	毎年法人から配布のお助け本には理念も刷りこまれり、会議をはじめ集まる時には読み合わせています。理念の「自由に～」の獲得には品質向上が求められており、毎月その点について見直しもおこなわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われているお祭りや催し物に足を運ばせて頂いています。地域の行事予定については、運営推進会議を通して教えて頂き、参加しています。	開設以来ゴミ集積場を提供し、地域の皆さんもきれいに使ってくださっていることを視認しました。乳児院との年4～5回の交流や事業所祭りが70余名の集いとなっているなど、5年の月日の重みを感じられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい祭りを開催し、地域の方々をお招きしております。その際、介護に関する相談等を受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3土曜日に定期開催しております。その際様々なアドバイスを頂き、活用できるよう取り組んでおります。	併設事業所と合同で隔月おこない、議事録は事業所を分けて明記され大変見やすく作成されています。地域包括支援センター職員が毎回介護に関わる行事の案内をくださっているのが印象的でした。	つつがなく開催はできているため、さらに有意義なものとするよう「ねらい」をもつことも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議に参加して頂き、その場を通じて事業所の取り組みについて伝えさせて頂いております。	市役所には運営推進会議へ足を運んで欲しいことをお願いし、「現状難しい。だが案内は出してほしい」との回答を得ています。事業所では議事録も届け、参加を心待ちにしています。介護相談員の受入もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう職員には会議時に周知・徹底しております。居室の施錠についてはお客様の判断に委ねておりますが、鍵を掛けられることは現在はございません。	玄関には施錠はありませんが、出たすぐが階段ということもありユニットは電子ロックがあります。足元コールをベット脇に置く人はいますが、全般的に壮健で本件に係る利用者は現在おりません。チーム会議の中に位置付けた勉強会で職員も学びを進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者対応マニュアルの作成や虐待自己チェックの実施を3か月に1度行う事により、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して成年後見制度について学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けさせて頂いております。その後、御理解・ご了承を頂き、書名・捺印をお願いしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月の運営推進会議や年2回の家族会、お客様アンケートにてご意見を頂き、検討・反映に努めております。	年2回の家族会や通信、面会でコミュニケーションは円滑ですが、運営推進会議の出席は得られていません。法人アンケートで入手した「居室の掃除～」については速やかに改善しており、来月も家族会を予定しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や毎日の業務の中で職員の意見・考えを確認しております。また、個別面談も行い意見を反映させています。	収入や経費のこと、サービス品質など法人から示される重点項目を意識することが浸透しており、「今月はコレに注意しよう」と啓発し合っています。ただ業務改善提案書の数は増えないため管理者が呼びかけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に目標管理シートを作成、半年毎に面談を行い個別に評価を行っています。また、目標設定をし、職員が向上心を持ってやりがいを感じながら働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップ研修に取り組んでいます。また、社外研修やマナー研修にも積極的に参加し、培った経験を会議時などに参加できなかった職員に教え、情報共有を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際や事業所連絡会に参加し交流が図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前に聞き取り調査・お試し利用をして頂き、お客様にご満足して頂けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族とお話させて頂き、悩み・要望・相談について伺っております。 また、お客様の事業所での様子等についての情報共有を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供できるサービス内容をしっかりと説明することで、お客様・ご家族の方の使いたいサービスを把握し情報を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様が行える家事などを行って頂き、役割を持って過ごして頂いております。 また、お客様同士が交流できるようなレクリエーションを考え提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の日々の様子や生活歴などを話し合っ共有しております。 また、お客様の普段の写真などを用いてご家族とお客様がお話できるよう取り組んでおります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族と連絡を取り合い、一緒に外出する機会を設けております。 また、お客様の好きな物、場所を把握し職員と外出する計画も練っております。	事業所で企画の莓狩りなど家族も一緒に楽しめるものは誘い、共に過ごしてもらえよう配慮しています。正月は自宅に戻ったり、音楽好きな人は自室で珈琲とCDで和んだりそれぞれの趣を継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などを通して、お客様同士に会話等の交流が図れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培った関係性を無駄にせず、相談事等ある際は親身になって対応させて頂いております、		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人ひとりと積極的コミュニケーションを取ることを大切に、お話を傾聴し支援に努めております。	利用者との会話や観察で得た情報は1日の様子を記録する電子上の書面にパソコンから入力し、職員間で共有しています。また介護相談員から普段職員が聞かない話が届くこともあり助けられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや個々の生活歴情報からサービスに繋げていける様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や、介護記録入力、申し送りノートを活用し、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出しあい、介護計画に反映出来るよう努めております。	担当制を敷かず、3ヶ月毎と細目にチーム会議で9名分のモニタリングを同時におこなっています。プランの変更に至らないまでも「刻みにしたほうが～」といった小さなことがケアマネジャーに伝わるようになっていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い職員間で話し合い・情報共有をしながら実践、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助・訪問理美容の手配・イベントの参加取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方々と挨拶をし、また地域行事の参加を通じ支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時、主治医と連携を取れています。また、ご家族様の移行に合わせ状況に応じた通院介助も行っています。	全体へ1回あるほか個別往診もあり、月間で10日前後訪れる協力医に全員が変更しています。階下の事業所に看護師が常駐しており、また協力医の傘下の訪問看護から週1回の訪問があり、医療連携が確かです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中の様子や変化などの情報をを訪問看護師に伝え、共有できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行っています。その後の対応方法については主治医と相談し決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と終末期のあり方について事前に話し合い、主治医・事業所・家族間で連携を図り支援に取り組んでいます。	契約時には「看取りをおこなう」ことを家族に伝えてはいますが、詳細は本人の状態変化に応じてとしています。現在該当者はおらず、これまでも実績はありません。今後は出来る限り受け入れたいとして、加算取得も視野に入れていきます。	「職員の不安は否めない」ようですので、チーム会議内の勉強会に組み込むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通して対応確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っています。また、災害時には地域の方々に協力して頂けるようお願いさせて頂いています。	年2回法定訓練をおこなってはいますが、消防署員の立ち合いはありません。また地域防災へは併設の小規模多機能事業所が参画できていますが当事業所では出ていません。	「地域との協力態勢は運営推進会議で推進していきたい」としていますので、是非進捗を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇の実施や外部講師によるマナー研修に参加しています。	年6回マナー講師が訪れる研修も開設以来続き、月1回のチーム会議では排泄介助など具体的な項目を取り上げ、ロールプレイングを以て接遇について学びを深めています。	利用者をたしなめる職員を見かけました。「家族なら言うがお客様なら言わない」言い方でしたので、言葉遣いとともに距離感について振り返ることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を話せるように、職員がお話を傾聴することで、お客様の希望に沿った支援を行えるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のご希望に合わせて、散歩や小規模のレクリエーションに参加して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	私物の衣類を使用して頂いております。また、着るものに関してはご本人に選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と料理をし、食事・片づけを行っています。	普段は業者配達の食材とともに届く献立のため、おたのしみメニューの日を月1回設け「季節を感じられる～」をめやすに要望を聞いて提供しています。車いす利用の人も椅子に移動して食事をしていました。	野菜炒めは人参、ミニコーン、筍、インゲン、こま肉、マッシュルームと種類とともに色も豊富な一方で、冷凍食材なのは気になりました。検食では評価に力を入れていくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況に合わせ、食事量や水分量が確保できるように支援させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行う事で、口腔内の清潔を保つことが図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時、または排泄状況に合わせ、トイレ誘導を行い出来る限りトイレ内で排泄して頂けるよう努めています。	消耗品などは居室に置き、トイレ内は整理整頓されています。チェック表に基づく誘導によって「維持、され、夜間の対応方法は事業所の方針でなく、本人の状態や希望に副っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取して頂けるよう働きかけ、また体操などによって適度に運動して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけ、ご本人の希望に合わせて対応させて頂いております。	一般の浴槽のため、現在浸かることが難しい人が3名います。併設事業所のリフト浴をもってしても安全面で心配な症状で、シャワー浴が続いています。お風呂好きな人にはプランに「快適な～」と盛り込まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活歴に合わせ居室空間・寝具に対応するよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて、服薬時の薬の理解・支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに施設内での役割を持って過ごして頂いております。また、声掛けをしお客様の希望に合わせて散歩や、レクリエーションに参加して頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員によるドライブや散歩、ご家族と連携しお客様の希望に沿えるような外出の機会を持つ事が出来るよう支援しております。	散歩は全員同じ時間にはできませんが、気分での外気浴や散策が日常的にあります。市内のミニドライブを「月1回は～」とし、外食を楽しむこともあります。遠出となる法人主催の介護安心ツアーの参加者は本年はいません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所で預かりしている。外出時の買い物は預かりした金額の中で、買物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より了解が得られた際には対応させて頂いております。また、お客様からご家族様と連絡が取りたいという希望があった際は職員が取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心がけております。	習字の張出しはあるものの掲示スペースの枠のなかのみで、ほかには何も無く整然としています。8畳ほどのベランダには昇降台も配され出入りがスムーズで、洗濯干しやベンチで職員と富士山を眺めたりする利用者もいます。	男性職員が8割なことが反映しているのか、廊下や階段、部屋の隅に埃や微細なゴミがみられます。またベランダにプランター導入など目の保養も欲しく感じました。清掃方法と美観への見直しを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士で会話ができるように職員の方で席順等を考えさせて頂き、対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の使い慣れた馴染みのある物を配置し、落ち着いて暮らせるように心掛けています。	収納力のあるクローゼットがあるため、スッキリとしています。誕生日に職員がプレゼントした祝いのカードが額に収められ満面の笑顔の写真とともにどの部屋にも同様のものが置かれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等の場所には色のついた印を付けて、お客様に分かりやすくし対応しております。		